

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成26年12月18日 (2014.12.18)

【公表番号】特表2013-544254(P2013-544254A)

【公表日】平成25年12月12日 (2013.12.12)

【年通号数】公開・登録公報2013-067

【出願番号】特願2013-539982(P2013-539982)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 15/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/04 (2006.01)

A 6 1 K 38/22 (2006.01)

A 6 1 K 31/337 (2006.01)

C 0 7 K 14/61 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 43/00 1 2 1

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 15/00

A 6 1 P 35/04

A 6 1 K 37/32

A 6 1 K 31/337

C 0 7 K 14/61 Z N A

C 1 2 N 15/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成26年10月28日 (2014.10.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ヒトプロラクチン受容体拮抗薬および化学療法剤を含む、患者における卵巣がん細胞の成長を阻害するための組み合わせ物。

【請求項 2】

ヒトプロラクチン受容体拮抗薬および化学療法剤を含む、患者体内での卵巣がん転移の進行を阻害するための組み合わせ物。

【請求項 3】

プロラクチン受容体拮抗薬がヒトプロラクチンであり、位置 1 2 9 でのグリシン残基が別のアミノ酸で置換される、請求項 1 または 2 の組み合わせ物。

【請求項 4】

アミノ酸がバリン、ロイシン、イソロイシン、セリン、トレオニン、プロリン、チロシン、システイン、メチオニン、アルギニン、ヒスチジン、トリプトファン、フェニルアラニン、リシン、アスパラギン、グルタミン、アスパラギン酸およびグルタミン酸から成る一

群から選定される、請求項 3 の組み合わせ物。

【請求項 5】

プロラクチン受容体拮抗薬が G 1 2 9 R である、請求項 1 または 2 の組み合わせ物。

【請求項 6】

化学療法剤がドセタキセルおよびパクリタキセルから成る一群から選択される請求項 1 または 2 の組み合わせ物。

【請求項 7】

化学療法剤がドセタキセルである、請求項 1 または 2 の組み合わせ物。

【請求項 8】

プロラクチン受容体拮抗薬が化学療法剤と同時または連続的に投与される、請求項 1 または 2 の組み合わせ物。

【請求項 9】

化学療法剤がパクリタキセルである、請求項 1 または 2 の組み合わせ物。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 4】

本発明はまた、患者の体内においてがん細胞を局在化し、転移を特定する方法にも関している。この目標を達成するため、放射性同位体、蛍光染料または他の標識製剤に共役したプロラクチン受容体拮抗薬が患者に投与され、次に患者は、拮抗薬が局在化された領域を特定する手順を受ける。共役したプロラクチン受容体の局在化に使用されうる手順には、コンピューター断層撮影法、コンピューター断層撮影法、磁気共鳴映像法および核磁気共鳴映像法が含まれる。

特定の実施形態では、例えば以下が提供される：

(項目 1)

ヒトプロラクチン受容体拮抗薬および化学療法剤の有効量の患者への投与を含む、患者における卵巣がん細胞の成長を阻害する方法。

(項目 2)

ヒトプロラクチン受容体拮抗薬および化学療法剤の有効量の患者への投与を含む、患者体内での卵巣がん転移の進行を阻害する方法。

(項目 3)

プロラクチン受容体拮抗薬がヒトプロラクチンであり、位置 1 2 9 でのグリシン残基が別のアミノ酸で置換される、項目 1 または 2 の方法。

(項目 4)

アミノ酸がバリン、ロイシン、イソロイシン、セリン、トレオニン、プロリン、チロシン、システイン、メチオニン、アルギニン、ヒスチジン、トリプトファン、フェニルアラニン、リシン、アスパラギン、グルタミン、アスパラギン酸およびグルタミン酸から成る一群から選定される、項目 3 の方法。

(項目 5)

プロラクチン拮抗薬が G 1 2 9 R である、項目 1 または 2 の方法。

(項目 6)

化学療法剤がオールトランス型レチノイン酸、アザシチジン、アザチオプリン、ブレオマイシン、カルボプラチン、カベシタピン、シスプラチン、クロランブシル、シクロホスファミド、シタラビン、ダウノルビシン、ドセタキセル、ドキシフルリジン、ドキソルビシン、エピルビシン、エポチロン、エトポシド、フルオロウラシル、ゲムシタピン、ヒドロキシウレア、イダルビシン、イマチニブ、メクロレタミン、メルカプトプリン、メトトレキサート、ミトキサントロン、オキサリプラチン、パクリタキセル、ペメトレキセド、テニポシド、チオグアニン、バルルビシン、ビンブラスチン、ビンクリスチン、ビンデシン

およびビノレルビンから成る一群から選択される項目 1 または 2 の方法。

(項目 7)

化学療法剤がドセタキセルである、項目 1 または 2 の方法。

(項目 8)

プロラクチン受容体拮抗薬が化学療法剤と同時または連続的に投与される、項目 1 または 2 の方法。